

18. 「お祖父ちゃんの手、お祖母ちゃんの手。」

2008年3月1日 社会福祉法人 江刺保育園

子どもたちを育てる上で、祖父、祖母の存在は、親にとってとても大切な援助者となることができます。特にはじめて子どもが生まれた、若い親御さんは、自分の親がいるだけで安心できると思います。初めて子どもを授かった若い親御さんにとっては、子どもが生まれ、育てるということは、未知の体験ですので、経験者であり、心置きなく相談できる人が直ぐ側にいることは、非常に心強いことです。

余談になりますが、普通地上の生き物は子どもが生めなくなると長くとも2,3年以内にその命が終わってしまいます。人間は、子どもを生めなくなっても長生きできるのは、この自然界では非常に特殊なことなのだ、ある生物学者が話しているのを聞いたことがあります。どうして長生きするかという理由として、「子どもを育てることを援助するために、人は長生きをするのではないか。」と語っていました。



私達人間は、集団で生きることによって、その命を輝かせることが出来ます。人間は孤独の中ではその存在価値が無に等しい生物です。このように考えると、母親がひとりで、子どもを育てると言うのは、人間の自然な子育てではないように思います。命を育てることは、家族の全体の愛情の連携作業であり、それが家族の絆と言われるものであると思います。

「おじいちゃんの手、お祖母ちゃんの手」とは、子どもを育てる親を支える力であることが改めて理解していただけたと思います。

しかし、子どもを育てる主役はあくまで、両親であり、祖父母が必要以上に関わりを持つべきではありません。祖父母の存在は、本当に困っている時の支えであり、親のよき理解者であり、陰となって支える存在であるべきです。そして、子どもたちにとって、何の条件もなく甘えることの出来る存在であるべきです。子どもたちが親に叱られた時、親の気持ちを優しく代弁し、子どもたちを許し、隠れ家のような、子どもたちを優しく、暖かく見守る存在となることが、祖父母の手であり、役割であるとおもいます。

こうして親の愛情をさらに強め、豊かな愛情の中で育った子どもたちは、安心して、社会の中でたくましく生きることができるようになると思います。

『くるみとごまのお焼き』

材料(約10枚分)

小麦粉 200g
黒砂糖 70g
胡桃 30g
黒ごま 30g
水 少量
油 少々

作り方

- ① 胡桃は細かくする。
- ② ボウルに小麦粉、黒砂糖、胡桃、黒ごま、水を入れて練る。
- ③ フライパンを温め油をしいて、生地を薄く流す。
- ④ 両面がほんのりと焼き色が付くまで焼く。